



㊦エラブウミヘビ。目の前に横を向いた鼻の穴があるのが分かる㊦エラブウミヘビの鼻に気泡がついていることから鼻の向きが分かる

エラブウミヘビ

学名 *Laticauda semifasciata*

分類 有鱗目コブラ科エラブウミヘビ属

分布 日本南西諸島沿岸から東南アジア沿岸、オーストラリア北部沿岸

全長 70~150cm (雄の方が小さい)

食べ物 ハゼ類、ベラ類などの魚類

特徴 水深20mより浅いサンゴ礁のある海域に生息する。昼夜共に活動することがあるが、夜間動き回ることが多い。尾は縦に平たくなっており、泳ぐのに適している。エラブトキシンと呼ばれる猛毒を持ち、その毒性はハブの80倍ともいわれるが、口が小さく、性格もおとなしいため、人をかむことはあまり無い。産卵の時だけ上陸する。

陸から海への進化分かる

ウミヘビと名前の付く生き物は、ハ虫類と魚類の両方にいます。ハ虫類のウミヘビは、エラブウミヘビのように「陸に上がることがあるグループ」と、「生涯、海で生活す

るグループ」に分けられます。ウミヘビはコブラの仲間が海に進出し、その環境に適応したと言われています。エラブウミヘビは進化という視点から、とても興味

深い特徴が多くあります。陸にすむヘビは鼻の穴が顔の横の方に開いています。海で生活するグループは鼻が顔の上に開き、潜る時はふたができます。エラブウミヘビの鼻の穴はというと、陸にすむヘビと同じく顔の横の方に開き、潜る時は鼻の中の組織を膨らませて、穴を「ぶさく」

ことができます。エラブウミヘビは陸にすむヘビと、海にすむヘビの「中間」の特徴をいくつか持っています。

2019年には、この3グループを比較したさらに興味深い研究成果が報告されました。嗅覚に関する遺伝子を比較したところ、陸にすむヘビよりも、海で生活するグループは、匂いを感じ取らないことが分かりました。エラブウミヘビは、その「中間」であることが分かったのです。つまり、陸ヘビから水陸両用のヘビ、そして生涯海にすむヘビへと進化することにつれて、匂いを感じることを捨ててしまったのです。

かごしま水族館でエラブウミヘビの鼻を観察してください。壮大な進化の物語が垣間見えるかもしれません。(展示課海獣展示係・濱野剛久)

おもしろ生き物図鑑
かごしま水族館から